

バルコニーの鉢植えの花たちには朝早く水をやりたいものです。起きて、まず、リビングの温度計を見れば、連日、29℃～30℃、湿度 70%前後を示しています。もっと暑くなりそうです。セミがしきりに鳴いています。カーテンを開け、南北両方の窓を開くと、風が吹き抜けていきますので、風のある日はエアコンはいりません。6時前に、バケツに水を汲んでは、何度も、バルコニーに出ます。戸外だというのに、コンクリートは連日の熱を蓄えていて、バルコニーは温室のようです。でも、花たちは猛暑にめげず、生きていて、「早く、お水を！」「たっぷりとね！」と、無言でねだっているのが分かります。本当に愛おしく感じます。



今は赤と黄のハイビスカスが毎日咲いて、派手で元気な姿をアピールしています。それに負けじとバラたちが背伸び、背伸びを繰り返して、高いところに花を咲かせます。さすがに小ぶりですので、気の毒と感じつつも、「いい子ね、偉いね」と呼びかけながら、バラの香りを楽しんでいます。今日はとうとう、薄桃色の「オードリー・ハップバーン」と赤の絞りの「レインボー」を切り花にして、室内に連れて来てしまいました。残った枝はできる限り切り詰めて、短くします。



バルコニーには年中お元気な「ベゴニア」がいるので、寂しくはなりません。小さいながらも半蔓性の可憐な「キャンディア・メディランド」(右)もひっきりなしに花をさかせてくれます。また、我が家のお宝である「スヴニール・ドゥ・アンネ・フランク」(左)が、蕾を抱き始めていて、ワクワクしながら、開花を待っています。



朝食の用意ができて、椅子に座り、窓に目を向けると、最高に気分が晴れるのです。窓からの眺めです。目の前に一面に広がるのはケヤキの木々、桜の木々の大枝です。そして空。木々を吹き抜けてくる風はまさに緑の風でしょう。また、野鳥がバサバサと飛んできます。バルコニーにはチマチマと鉢が並んでいますが、今年は不思議なことに、一昨年と去年のピンクのシクラメンが葉を落とさず、何度も蕾を付けてくれているのです。でも、冬にはどうなるのかと心配しています。

